

文化女大家政 ○成瀬 信子 由利 素子

目的 織物の表面性状を視覚によって評価する場合、織物の種類と試料表面が平面であるか、曲面であるかの違いを試料幅の違いを含めて官能検査によって、どのように評価が異なるかを調べた。

方法 試験布はベルベット4色（パイルはレーヨン）と光沢の大きい“デフォール”（ポリエステル朱子織物）6色で、試料幅は平面は2 cmから1.5 cmおき5段階、曲面は直径を平面と同じ5段階とした。標準電光下で試料高さは常に6 cm一定とし、一対比較法により表面性状11項目について5段階評価で被検者15人による官能検査を行った。有意差検定と官能量の推定値から、各試料条件の違いによる評価の差を種々検討した。

結果 1. ベルベットの黒は曲面で表面性状を評価した場合、明るさ、表面の粗さ、きれいさ、黒さ共に、平面の場合よりも分散比が大きく、直径の大きさ順に明るく、表面が粗く見えるが、直径が小さい程きれいで、より黒く評価している。

2. しかし“デフォール”では赤系を除いては平面より、曲面の方が直径の違いによる評価の差は小さい。しかし“デフォール”の赤系は曲面の方がつやの良さ、明るさ、あざやかさ、なめらかさ、きれいさ、色の濃さに対する分散比は大きく、条件による差がある。

3. 平面と曲面に対する視覚評価は、織物の種類は勿論、色によって、かなり条件による評価の違いの傾向が異なることが明らかに示された。